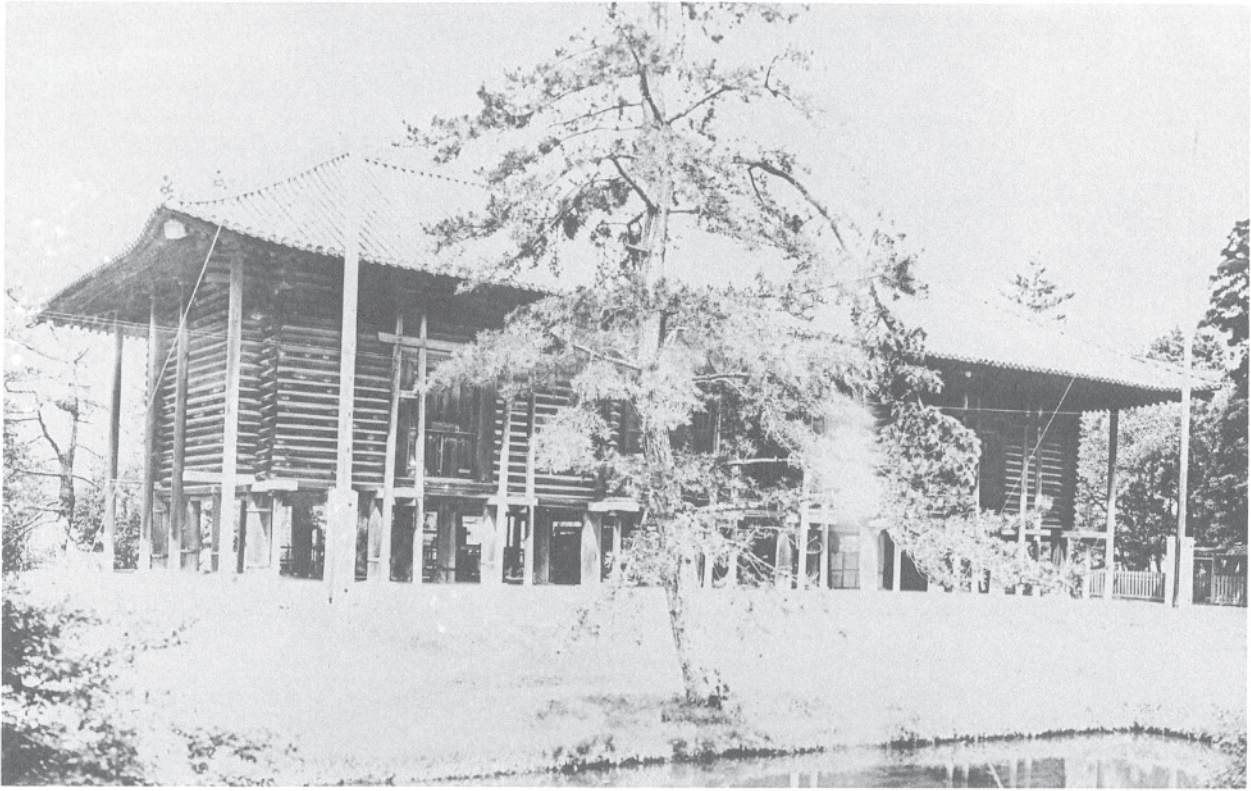


五、大正二年修理の工事写真

『宝庫修理現場状況写真』写真帳

宮内庁正倉院事務所蔵



153 大正修理前正側面（東面及び南面）

「第一号 宝庫東側及南妻全部現況」。隅と各大梁の位置に軒支柱が立てられており、軒の垂下が危ぶまれていたことが考えられる。南面の軒の通りに乱れが見られる。



154 大正修理時に建設された仮庫

「第二号 仮庫東側及南妻全部現況」。大正修理においては、正倉内部の宝物を仮置きするための仮庫が建設された。外周の板壁は、正倉の校木の効果を考えたものかも知れない。



155 持仏堂正面（南面）

「第三号 元持仏堂外圍出来南及東側全部現況」。正倉の西南にある三間堂。江戸時代初期の建立と思われる。正倉の大正修理に際して、外周に板壁を張り巡らし、宝物の保管庫に転用されたかと思われる。



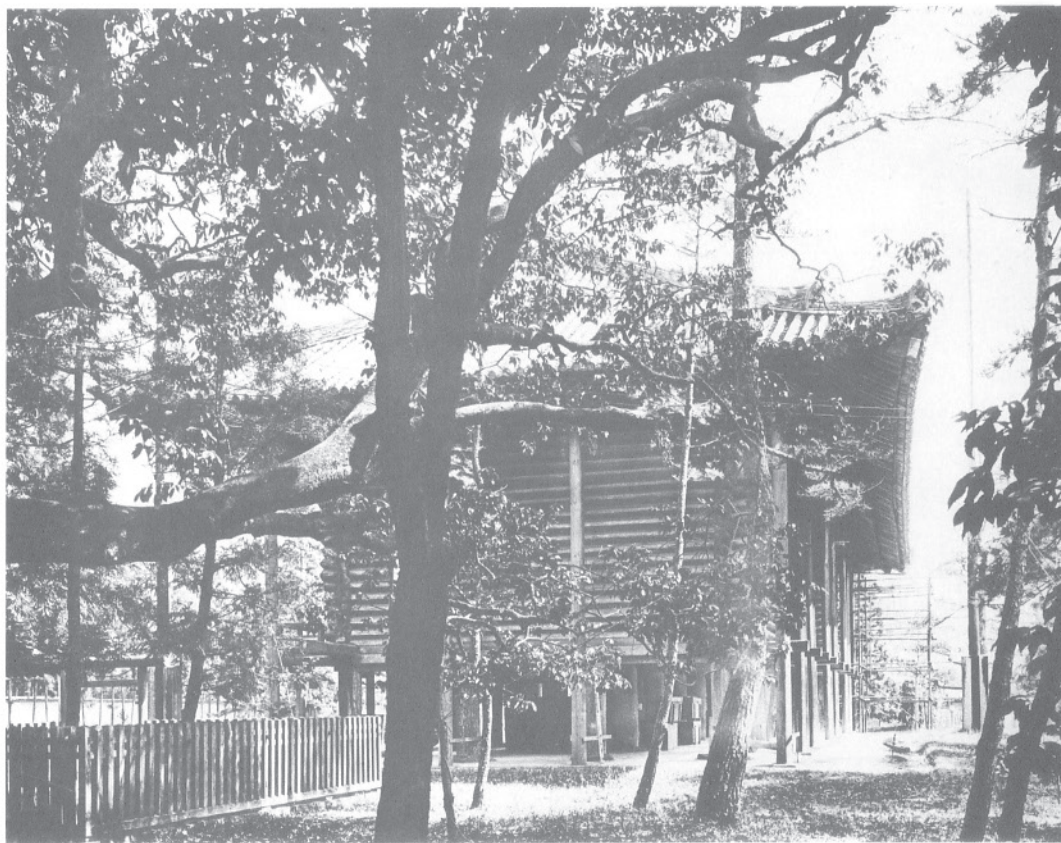
156 大正修理前正側面（東面及び北面）

「第四号 宝庫東側及北妻全部現況」。図版写真153の写真とは異なり、東側に縁台のようなものが設けられ、中央には木製階段が付けられている。宝物を運び出す準備と思われる。



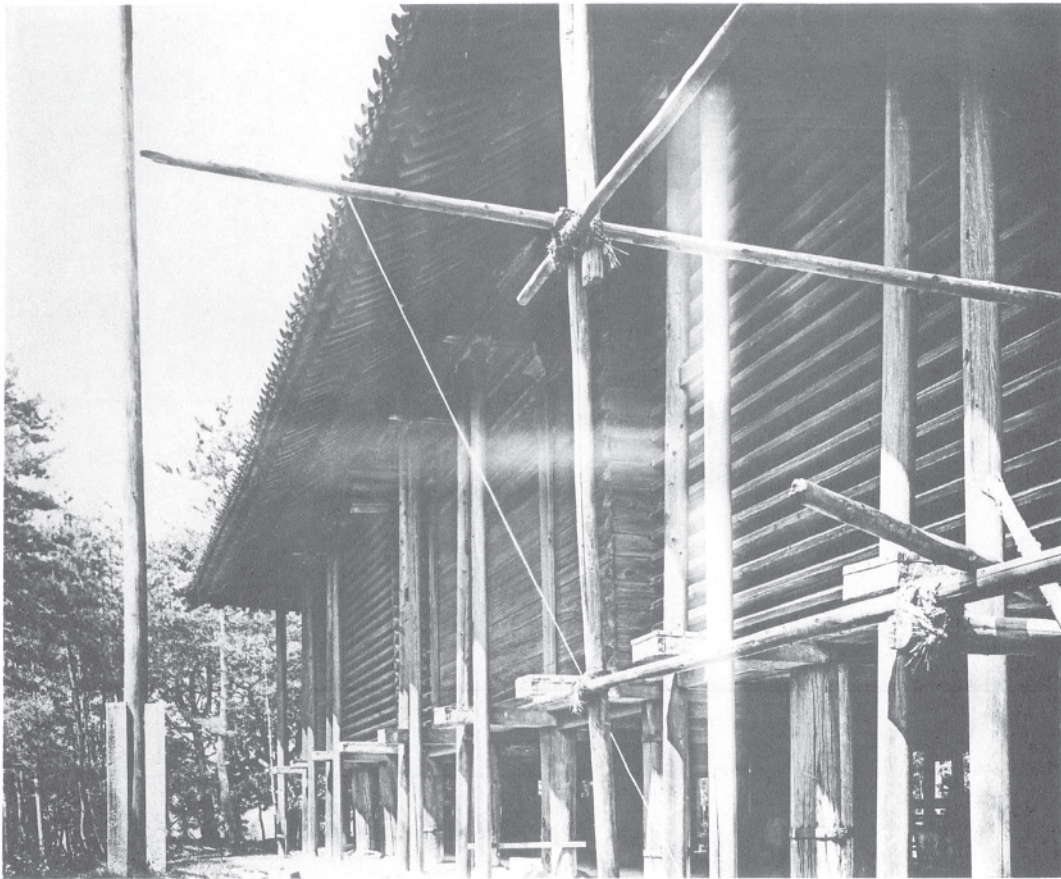
157 大正修理前正側面北寄り（東面及び北面）

「第五号 宝庫東側平面及北妻全部現況」。図版写真156とほぼ同じ位置からより北方を撮影。杉本神社の玉垣が見え、正倉の北面もやや明るく校木の様子が写る。



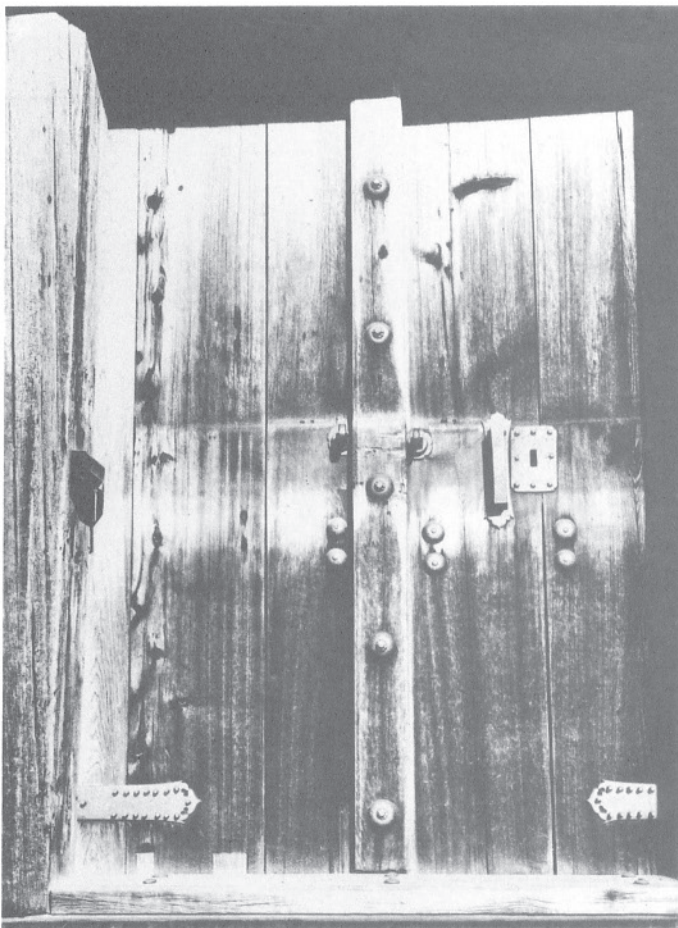
158 大正修理前側面（北面）

「第六号 宝庫西側及北妻全部現況」。背面に当たる西側はよく見えないが、軒先の乱れはわかる。北面も樹木によって遮られ、多くを見ることはできない。左側に杉本神社の玉垣が見える。



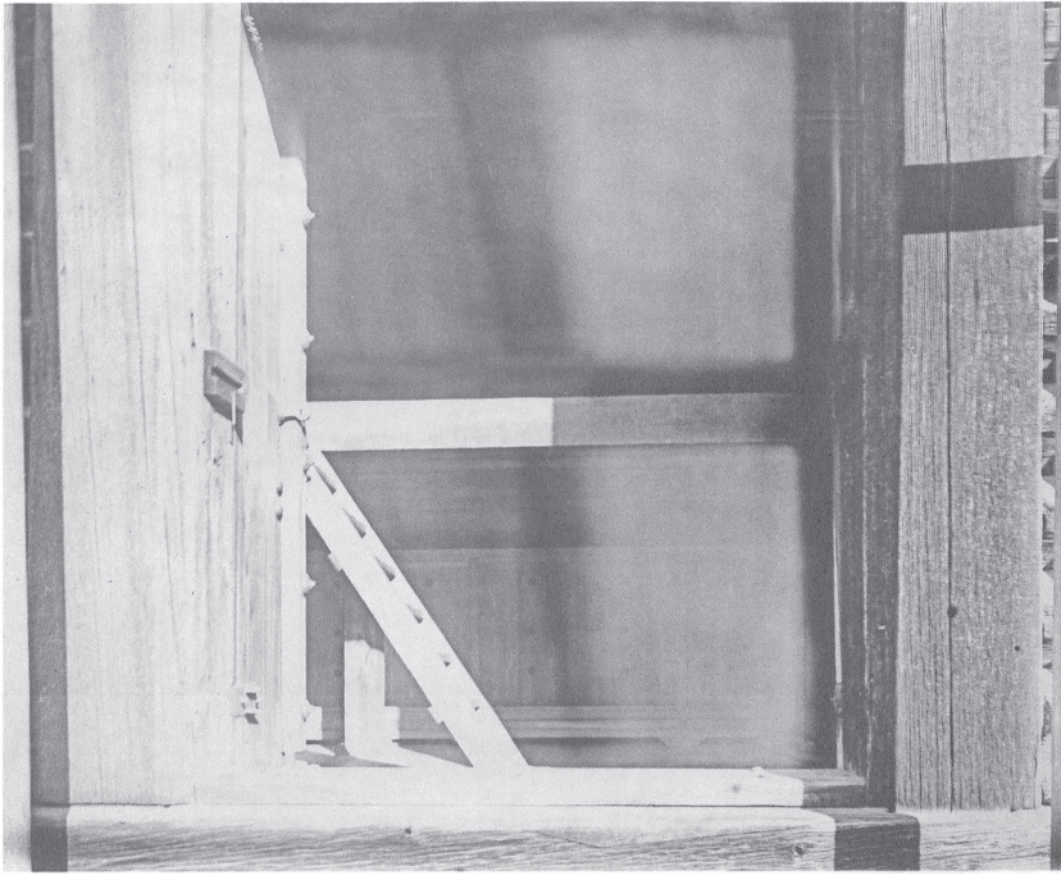
159 大正修理前背面（西面）

「第七号 宝庫西側南ヨリ中、北倉西側軒裏廻ヲ見タル現況」。背面である西面を南側より見る。中倉あたりの軒の通りにやや乱れが見える。右手の丸太は修理用の足場の準備と思われる。



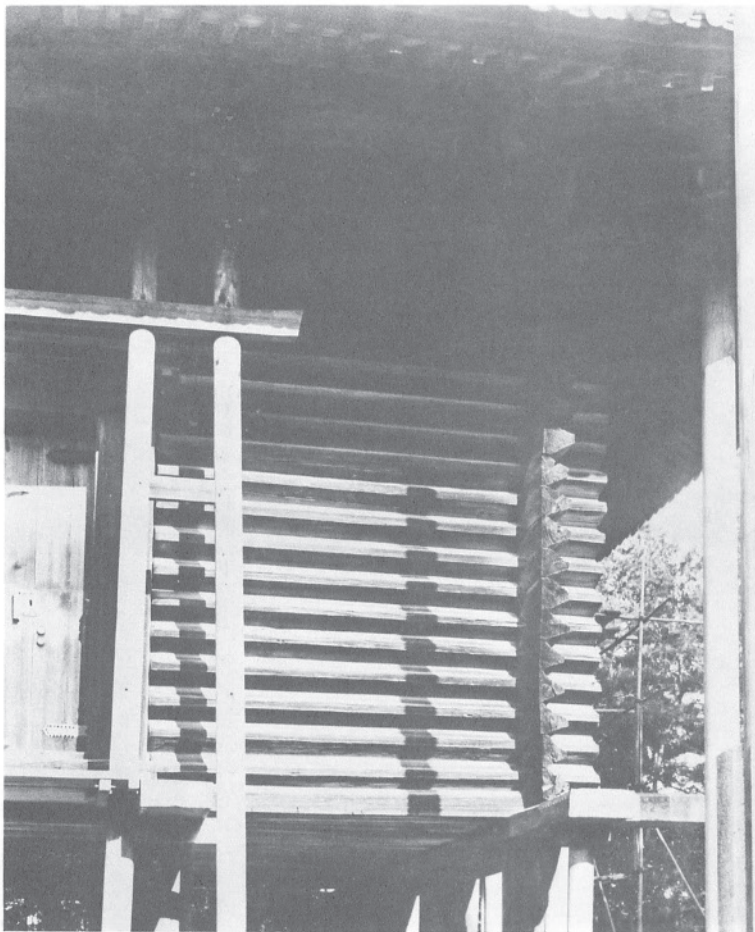
160 大正修理前北倉扉詳細

「第八号 宝庫北倉入口閉扉全部ヲ見タル現況」。当初の扉は、記録により建長六年の落雷で取り替えられたことがわかる。大正修理前も現状と同じものであり、左側の扉内側には明治十七年の刻字がある。



161 大正修理前北倉内部

「第九号 宝庫北倉入口ヨリ内部ヲ見タル現況」。図版写真160の扉を開けたところ。二階の床と梯子段を見ることができる。一階奥にはガラス戸付陳列棚も見える。



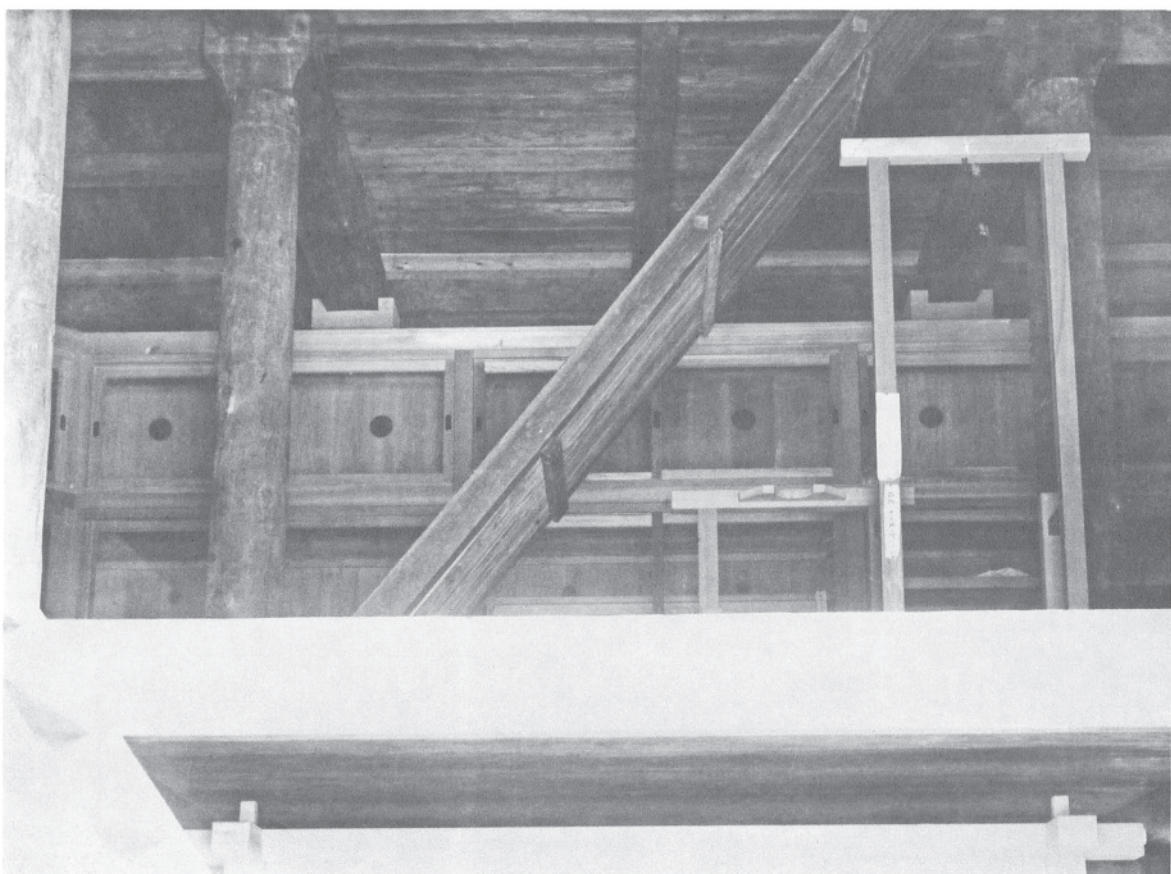
162 大正修理前北倉校木詳細

「第一〇号 宝庫北倉東側北角軒先及校木組手現況」。北倉の東面北寄りの校木を写したもの。軒支柱の詳細がよく分かる。



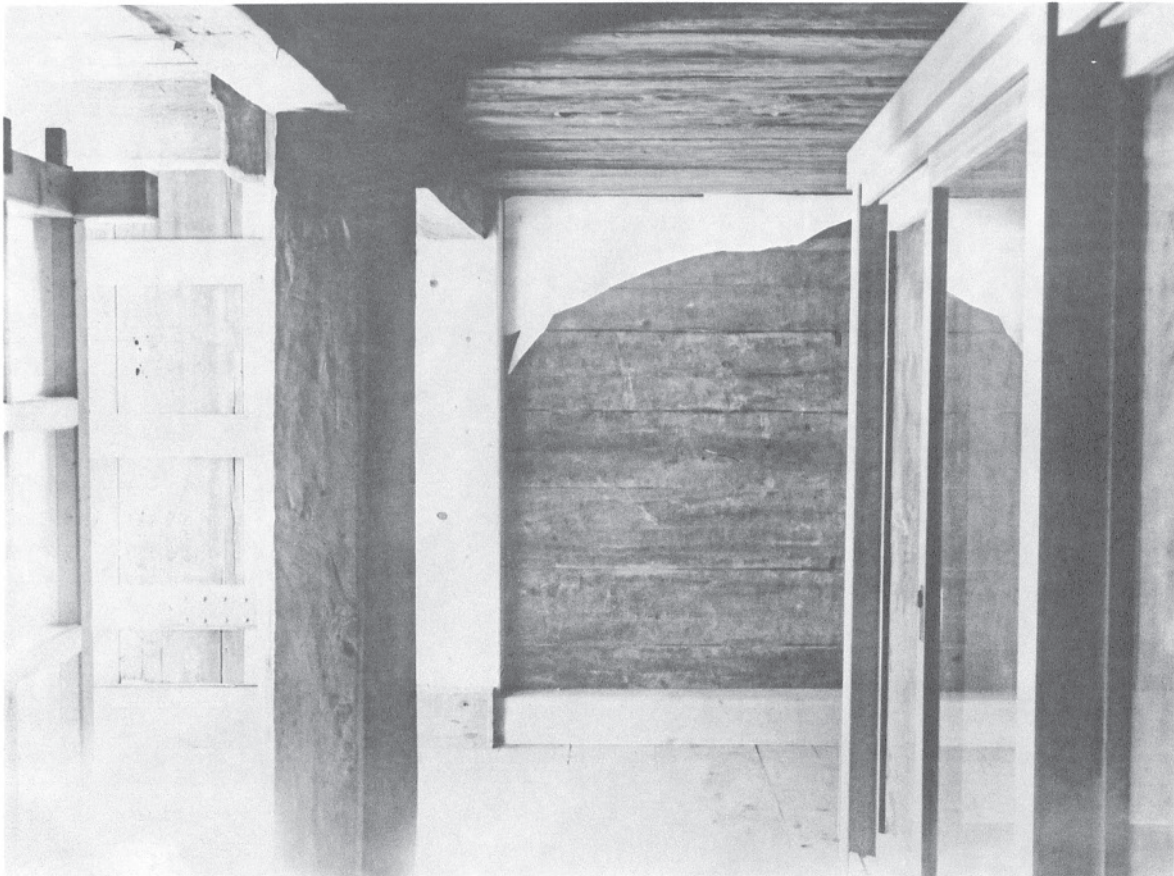
163 大正修理前中倉東面詳細

「第一一号 宝庫中倉東側軒先及入口廻現況」。軒支柱の状況と縁台の状況が見える。



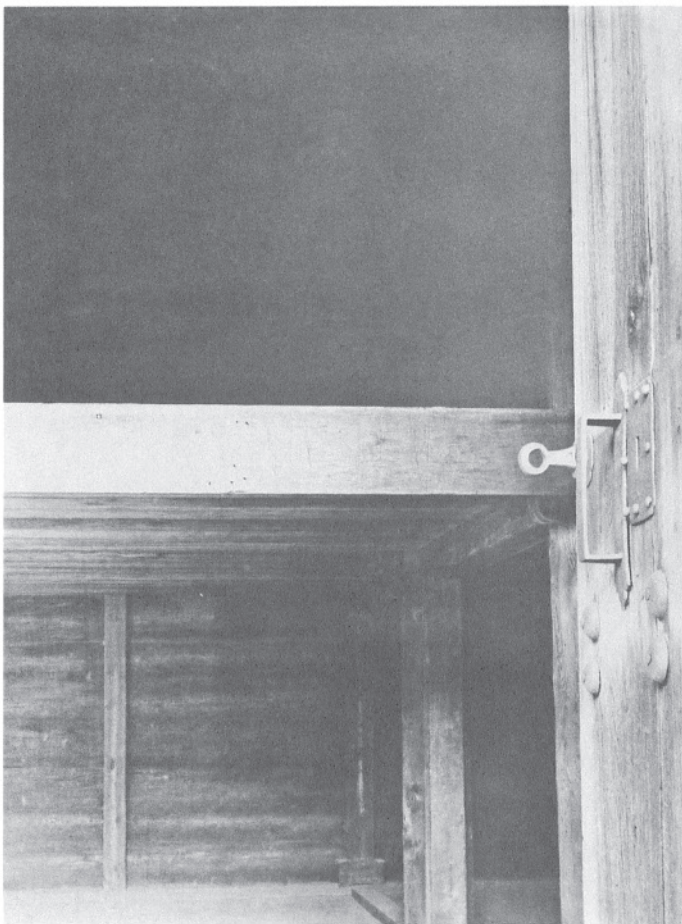
164 大正修理後南倉内部二階

「第一二号 宝庫南倉入口ヨリ内部ヲ見タル現況」。扉の外から見た内部。二階のガラス戸付陳列棚の奥に大斗が見えることから、大正修理後の状態だと思われる。一階には置き式のガラス戸付陳列棚が見える。



165 大正修理後北倉内部一階東側壁面

「第一三号 宝庫北倉内部落雷跡現況」。建長六年の落雷の跡がある壁面。壁際に地覆が入っていることから大正修理竣工後に撮影したものと思われる。



166 大正修理前南倉一階

図版写真164と同じ頁に貼られ、同じ題名が付く。こちらは二階は暗くて見えず、一階部分が写る。奥の壁面が見え、ガラス戸付陳列棚がなく、壁際に地覆はなく、間柱があることから大正修理中と考えられる。